

三条市実学系ものづくり大学開設検討委員会（第3回）

議事概要

- 1 開催日時 平成29年1月31日（火）14時00分～15時30分
- 2 場 所 三条市役所 本庁舎2階 大会議室南側
- 3 出席者 [委員]
高橋（委員長）、兼古（副委員長）、シャハリアル、大湊、勝見、齋藤の各委員（6名）

[三条市（事務局）]
市川政策推進課主幹、坂田高等教育機関設置準備室長、石田一般任用主事
- 4 傍聴者 なし
- 5 報道機関 越後ジャーナル社、建設速報社、三條新聞社、新潟日報社、日本工業経済新聞社
- 6 配付資料
 - ・資料1 育成人材像 [案] (1/2)
 - ・資料2 育成人材像 [案] (2/2)
 - ・資料3 教育課程の骨子（履修体系イメージ） [案] (1/2)
 - ・資料4 教育課程の骨子（履修体系イメージ） [案] (2/2)
- 7 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 配付資料確認
 - (3) 議事
 - 冒頭、委員長から、本年度の検討状況を「中間まとめ」として取りまとめる旨の説明があった。
 - 事務局から、配付資料に基づいて、育成人材像、並びに、教育課程の骨子（履修体系イメージ）の事務局案について説明があった。

○ 各委員による意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

[育成人材像について]

- ① テクノロジスト・ものづくり人材には、工学的基礎は当然必須となるが、複合力を発揮していく上では「創造力」、「テクノロジ・マネジメント能力」も必要である。
- ② 「テクノロジ・マネジメント能力」は、学問としてやろうとすれば相当な時間を要し、大学院レベルのものになってしまう。エッセンスとして取り入れることで、ものづくりの一連のプロセスを理解し、ものづくりに関する技術に対してカバーができるようになる。
- ③ テクノロジストというものが、スペシャリストかゼネラリストかの区分で言えば、前回の案ではゼネラリスト寄りのようにも見えたが、今回の案ではスペシャリスト寄りが明確な形となっており、工業高校から見てわかりやすい形となった。
- ④ 一つの専門分野だけを修めればよいというわけではなく、それを広く俯瞰して見ること、三条というエリアで言えば、持っている個々の光る技術を融合して、複合的な新しい価値を見出すことが重要である。
- ⑤ 例えば、技術検証能力や調査分析能力を持ち、ネック工程を解決できるような人材が会社に入って、商品レベルが更に上がれば、企業評価や製品評価が上がるチャンスが増える。
- ⑥ 地域産業界の協力を得て、実践的な技術・知識を早い段階から取り入れることは、地域全体をまとめた一つの大きな教育システムとなり、地域の優秀な人材がこの地域で育ち、そして活躍し、地域を活性化していく魅力を創っていくことにつながる。また、大学4年間の課程だけではなく、入り口となる高等学校との連携、卒業後に活躍の場を与えてくれる地域産業界、これらがうまく循環することによって、一つの流れとなる。

[教育課程の骨子（履修体系イメージ）について]

- ① 教育機関においては、学生にどのような価値を付加できるか、付加価値をどこまで上げられるのかが大きなポイントであり、長期の実務経験は大きな付加価値となる。
- ② 長期インターンシップについては、企業と大学の各々が何をすべきなのかということをも明確なプログラムとする必要がある。
また、これまでの職場体験のようなものと企業が混同したり、企業の混乱を招いたりしないよう、開学までに十分な説明等を行っておく必要がある。

- ③ 「創造力」に含まれると思うが、最近の三条市の若手経営者が頑張っている会社ではデザインで革新を起こしている。デザイン性そのもの、もしくは、デザインが重要であることが伝わる授業科目があるとよい。
 - ④ デザインであれば長岡造形大学など、県内他大学とのパートナーシップを組むことによって、県内のリソースを最大限に活かしていくのはよいアイデアである。
 - ⑤ 工業系以外の高等学校から進学してくる学生への教育を考えると、教育課程以外にも、教育環境、教育の場、よい刺激、チーム作りといったものがノウハウとして重要である。
 - 意見交換・検討の結果、概ね事務局提案の内容をもって「中間まとめ」の案を作成することとされた。
 - 「中間まとめ」については、後日、委員長と事務局との調整において案を作成した後、事務局から各委員に意見照会を行うこととされ、最終調整は、委員長に一任された。
 - 事務局から次回以降の開催についての説明があった。
- (4) 閉会

了